

HKFA Technical Report

2017 地域トレーニングキャンプU-17(北海道)

開催時期

2017年11月 7日(火)
～11月 9日(木)

会場

札幌市東雁来公園サッカー場
東コート他

参加選手

26名 (FP 23名、GK3名)

スタッフ

山橋貴史(NTC)
石尾浩一(北海道トレセンU16)
蟻川雅寛(北海道トレセンU16)
相川雄介(北海道トレセンU16GK)
池田祐真(トレーナー)

試合

11/7(火) 17:30～ 30分×4
U-17北海道トレセン
3-1(0-1, 2-0, 0-0, 1-0)
11/8(水) 19:00～ 30分×3
U-17北海道トレセン
0-3(0-1, 0-2, 0-0)



公益財団法人 北海道サッカー協会
Hokkaido Football Association

1 全体

北海道高校年代の選手強化・発掘のためプリンスリーグ、6月インターハイ、10月高校選手権と各ブロックトレセンから推薦された選手26名(FP23名、GK3名)を集めて2泊3日のトレーニングキャンプを行った。昨年は雪が降りスケジュールを変更しながら行ったが、今年は問題なく実施できた。期間中はトレーニングを3回、練習試合を2試合を設けM-T-Mの流れで行った。平日開催のため試合はナイターになり、昼間の時間はミーティングやレクチャーを入れてプレーの共有を図った。選手は午前午後と強度の高いトレーニングと試合を行い、疲労はあったが集中した時間を過ごすことができた。

2 技術・戦術

・ビルドアップ

相手がプレッシャーをかけてきても、GKを含めて全員が自陣から組み立てることを目指し、改善することができた。最初はセンターバックが開きすぎ、サイドバックが高い位置にポジションをとり、止まって受けようとするので相手にプレッシャーをかけられるとボールを動かさなかった。それぞれのポジションを修正して、マークを外し、動きながらプレーすることを促すと、タイミングよくサポートしてボールを前に運ぶ場面が増えた。GKのパス&サポートが改善され、一つ飛ばしたところへのパスで起点を作り、前向きのサポートでボールを前に運ぶことができた。ハイプレッシャーになると視野が狭くなり、前線を見ながら選択肢を持ってプレーできない選手もいた。

・ポゼッション

中盤でのボールの動かし方は全体的に良かった。縦に早く攻撃することが多かったが、ビルドアップが改善されると中盤でも相手のギャップでパスを受けてテンポよくパスをつなぐ場面が増えた。少ないタッチでシンプルにボールを動かすことが、攻撃のリズムを作り出すことを選手も感じてくれたのではないと思う。また、相手の守備状況を見て攻撃方向を変えることも自分たちで判断できるよ



うになった。FW同士が見て、DF背後へのアクションとくさびのパスを受けるアクションを起こし、パスを引き出したことも良かった。ただ、パス&コントロールのミスが起こりボールを失う場面もあったため、今後も質を高めてほしい。

・崩し

FWに推進力のある選手がいたので前向きになった時には相手守備をドリブルで突破する場面はあった。サイドからの攻撃もSDFが関わり崩す場面があったがクロスの質と中に入る人数が少なく得点は獲れなかった。また、アタッキングサードでの崩しは単純にクロスを放り込むような攻撃が多く、サイドチェンジやコンビネーションの選択肢が少なかったところを改善できなかった。決定機でのフィニッシュの精度も課題であった。

・守備(ボールを奪う)

ボールを奪うことは意識が変わりチャレンジする場面が増えた。間合いを詰めて身体を寄せ奪い切る場面も増えた。コンパクトな状態を作り、前線から奪いに行くことは良かった。

・守備(ポジショニング)

ポジショニングについては個人差があった。ボール状況でポジションをとることをトレーニングしたが理解度に個人差があり、人にマークだけしてしまう選手がいた。個人戦術を高めたい。全体的には縦・横のスライドをしながらコンパクトな状態を作って奪いに行くプレーが増えたが、攻守の切り替えが遅くなり間延びする時間もあった。また、最終ラインがロングパスを気にしすぎて早くラインを下げ、空いたスペースを突かれる場面もあった。1stDFの決定を早くしてコンパクトな状態を崩さずをしたい。また、ラインコントロールの質も高めていきたい。

3 GKについて

全体を通して3選手とも向上心を持って積極的にプレーしてくれた。課題としては、まずコーディネーション能力の向上が必要と感じた。身体全体の連動した動きをスムーズに行うことで、GKのプレーおよびキック、ステップの改善に効果的である。次に基本姿勢やキャッチング、ダイビングなどのGKテクニック



の向上を意識してほしい。ボールスピードが上がると動けなくなり、ミスも多くなったことから、今まで以上に丁寧に正確にテクニック向上に努めてほしい。最後に個人戦術の理解力向上を求めたい。何となく感覚や雰囲気判断している印象があったことから、いつ、どのような判断が必要なのかを整理し、より狙いを持ってプレーやコーチングに努めてほしい。

今後、自チームでも継続して意欲的にトレーニングし、成長した姿を見られることを期待したい。

4 まとめ

今回のトレーニングキャンプはビルドアップとボールを奪いに行く守備を重点的に行った。守備ではアプローチで寄せるだけではなく、間合いを詰めてボールを奪い切ることを意識させ、攻撃につなげるチャレンジを促した。選手は徐々に意識を変えて身体を使ってボールを奪うようになった。フィジカルの弱い選手も意識は変わった。そのためにポジションをとり続け、チームでコンパクトになる必要があると理解してくれた。ボールを奪いに行く時には連動したプレーが多くなり意図的に奪いに行く場面は増えた。攻撃ではGKを含めアバウトなロングフィードパスではなく、相手を見て優先順位を共有して組み立てることを伝えた。動きながらプレーしたり、マークを外す習慣がなくボールを動かさない場面もあったが少しずつ改善が見られた。相手を見てシンプルにボールを動かせるようになるとテンポが上がり、ボールの移動中にサポートしてポゼッションする場面が増えた。決定機を作り出すところまではできたので崩しの精度とフィニッシュの精度を高めて得点を奪うようになってもらいたい。今回のトレセンでは選手が短い時間の中で集中して話を聞き、強度の高いトレーニングに取り組み変化する場面が多く見られたことは良かった。今後も各チームで継続してもらいたい。学校行事によって参加できない選手もいましたが多くのチーム関係者のご理解をいただき実施することができました。ありがとうございました。